



「思いやりの心」「かけがえのない命」

「人権の世紀」といわれる21世紀に入って、既に10年以上が経過した。しかし、いまだに、物質的な豊かさの追求に重きを置き、心の豊かさが大切にされない風潮、或いは、他人への思いやりの心が希薄で、自己の権利のみを主張する傾向が見受けられ、このような状況が、様々な人権侵害を発生させる大きな要因の一つとなっている。特に、甚大の被害をもたらした東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故に関しては、放射能の影響を心配するあまりか、根拠のない風評に基づく偏見や差別など、被災者への思いやりを欠くと思われる事案がいまだ発生している。

国際連合は、1948年（昭和23年）12月10日の第3回総会において、世界における自由、正義及び平和の基礎である基本的人権を確保するため、すべての人民とすべての国とが達成すべき共通の基準として、世界人権宣言が採択された日である12月10日を「人権デー」と定め、すべての加盟国及び関係機関が、この日を祝賀する日として、人権活動を推進する諸行事を行なうよう、要請する決議を採択した。

いわれなき差別、いじめ、体罰は犯罪であり、これらの犯罪の撲滅、根絶のため、人権活動があり、人権啓発が必要である。そのため、当センターでは様々な人権啓発活動を行っているので、詳しくはお問い合わせください。

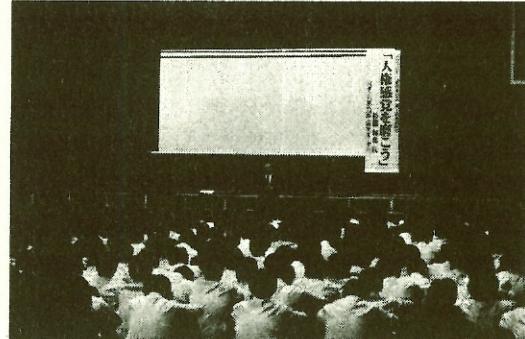
県内の小中学校や市民団体、企業などが山梨県の「やまなし人権啓発出前講座」による講師派遣事業を活用して、人権に関する学習会や講演会を開催する機会が増えてきている。

その中で、国連NGO横浜国際人権センターの杉藤旬亮会長も講師の依頼を受けて、県内の小中学校等に出向いて講演会を行なっている。10月31日にも、甲府市立南中学校で人権講演会を開催した。当日は、生徒・保護者・教職員690名という多くの方が聴講し、会場は、これほど人が入っているとは思えないぐらいの静けさのなかで講演が行なわれ、全ての人が杉藤会長の話に耳を傾けていた。

講演で杉藤会長は、「ひとり一人が、人権を尊重することの重要性を認識し、これを前提として、他人の人権にも十分配慮した行動をとることができるよう、相手の気持ちを考えることや、思いやりることが大切である。ひとり一人の心に訴えることにより、すべての人々が個人として尊重され、互いに共在し得る、平和で豊かな社会の実現のため、将来、日本を支えていく皆さん、日々、人を大切にする心を持って、勇気を持って、他人に優しく接してください。」と講演を締めくくった。

最後に講演会を聞いた生徒の作文を紹介します。

「前にアンケートをとった時に、私は、基本的人権の尊重とは、人が生きていく権利。と書きました。でも、今日の杉藤先生の話を聞いて少し変わりました。人権とは命、幸せを守っていくこと。私は電車の中でお年寄りに席を譲っている男性を見たことがあります。そのお年寄りは喜んで席を譲ってもらっていました。その時、私は、自分にもこんなことができるのだろうか?と思いました。だけど今日の杉藤先生の話を聞いて、人の中にいる優しさが、その勇気をくれると思いました。だから私もバスや電車に乗ったとき、困っている人が居たら席を譲ってあげたいと思いました。また、バスや電車だけではなく、どんなに些細なことでも、人を大切にする気持ちがあるなら、その人にどんなことでもしてあげられると思いました。そして、今日、家に帰ったら、鏡の中の自分を見つめて、今までの自分を振り返ってみたいと思いました。そして、これから私は、生きているかぎり、人を大切にする優しさを忘れません。今日は、本当にありがとうございました。」



国連NGO横浜国際人権センター・山梨プランチ

代表 横山 隆史（全日本同和会山梨県連合会会長）

〒400-0831 甲府市上町601-4 甲府市環境センター内 なでしこ工房1階 Tel 055-243-8563